



COVID-19 ワクチン、検査、治療および治療薬への普遍的なアクセス に関する インダストリアル・グローバル製薬産業労組ネットワークによる声明

2020年6月17日のインダストリアル・グローバルユニオン執行委員会で承認された COVID-19 に関する政治声明「公平でより良い未来に向けた団結と闘争」を指針として、

インダストリアル・グローバルユニオンとインダストリアル・ヨーロッパが、2021年2月1日以降の COVID-19 との闘いにおいて公正と連帯を訴え、医薬品産業に対し、利益よりも公益を優先し、すべての人が治療薬とワクチンを利用できるようにすることを求めていることに留意し、

COVID-19 パンデミック期間中における世界貿易機関（WTO）知的所有権ルールの一時放棄（南アフリカとインドが提案し、100カ国を超える WTO 加盟国が支持）を支持する、いくつかの労働組合（インダストリアルを含む）と市民社会組織が署名した市民社会の書簡を後援し、

パンデミックならびに非常に多くの世界的な健康課題の根源にある不平等の克服を目的とする WHO の #VaccinEquity キャンペーン（インダストリアルが支持）を承認し、

パンデミックがこれまで以上に厳しさを増し、感染力と致死性が高まり、人々が疲弊していること、ワクチンの供給不足と不公平な配布が、このパンデミックの急性期を終わらせて世界的な回復をもたらすうえで、今なお最大の脅威となっていることに留意し、

世界中の医薬品産業とすべての従業員が、パンデミックに対応し、非常に短い期間でワクチンを開発・展開すべく例外的な努力を払っていることを認め、

医薬品産業が、知的所有権はイノベーションへのインセンティブを保護するという原則に基づき、知的所有権を大いに重視していることを考慮して、このパンデミックは異例の事態であり、例外的措置が必要であると主張し、

ワクチンの本格展開が始まってから、投与されたワクチンの大多数が高所得国に集中しており、低所得国が COVID-19 ワクチンへのアクセスに関して依然後れを取っていること、全世界で試験、治療および COVID-19 ワクチンへの公平なアクセスを達成するには地球規模の協力が非常に重要であることに留意し、

イノベーションを妨げないようにバランスよく発展途上国にワクチンを供給するために、あらゆる努力を払わなければならないと確信し、

世界中でこの部門の従業員を代表している加盟組織から成るインダストリアル・グローバル製薬産業労組ネットワークは、2021年5月25日のバーチャルミーティングで、

- COVID-19 ワクチン、検査、治療および治療薬の公平なアクセスと配布に関して、発展途上国・先進国間に格差があることに深刻な懸念を表明し、
- XX カ国を超える国々の医薬品労働者の代表として、COVID-19 関連のワクチン、治療薬、検査および治療の生産を増やし、これらの製品への普遍的なアクセスの保証に助力するグローバルな取り組みに貢献する意思があることを表明し、
- ワクチン、治療、診断、その他の医療技術の開発、生産および承認に向けて障害を一時的に除去するなど、あらゆる方法を利用して、より多くのメーカーが世界的供給に貢献できるようにすることを求める行動に加わり、
- 各国政府とワクチンメーカーに対し、イノベーションを妨げずに全世界でワクチン、治療および診断を公平に配布するために、多くの国々で製造能力を強化するよう、COVAX と ACT アクセラレーターを支援するとともに、技術——特に WHO の mRNA 技術移転ハブを利用して mRNA ワクチン技術——を共有するなどの取り組みを大胆に推進することを求め、
- すべてのワクチン生産国に対し、輸出を許可し、サプライチェーンを混乱させる措置を回避するよう求め、
- 制限が一時的に緩和された際に、ワクチンの完全性と品質を保護することの重要性を強調し、
- 大量のワクチンを貯蔵または備蓄しないという各国による共通のコミットメントを要求し、
- 各国政府に労働者の安全衛生保護を基本的権利と認めるよう求め、COVID-19 を職業病と認めることを要求し、
- すでにワクチンを生産している国における既存の製造業雇用と労働者の権利の保護を要求し、意思決定プロセスの全体を通して医薬品産業の組合・労働者との協議の重要性を強調する。
